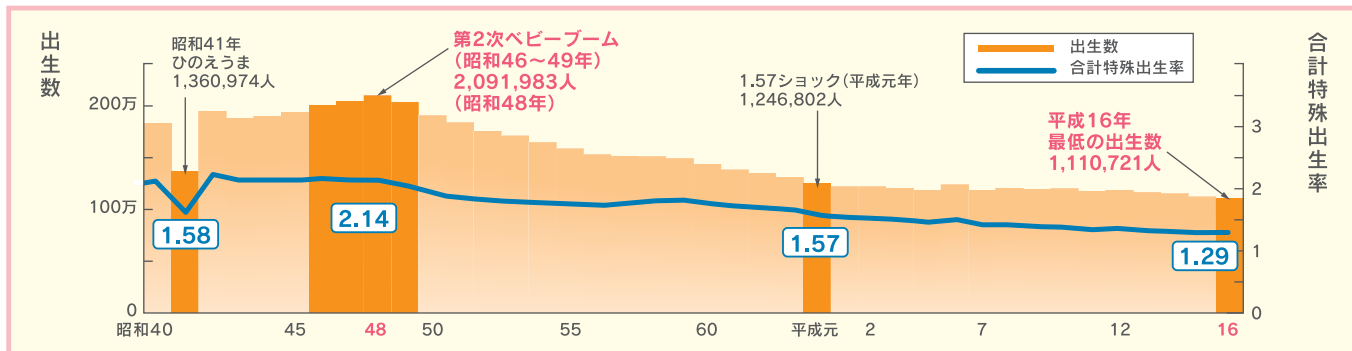


みんなで作ろう。 未来のお母さんと赤ちゃんにやさしい環境。



深刻な日本の少子化問題

現在、日本は急速に少子化が進行しています。出生数は平成16年に1,110,721人、合計特殊出生率は1.29と、いずれも過去最も低い水準を更新しています。



資料：厚生労働省「人口動態統計」

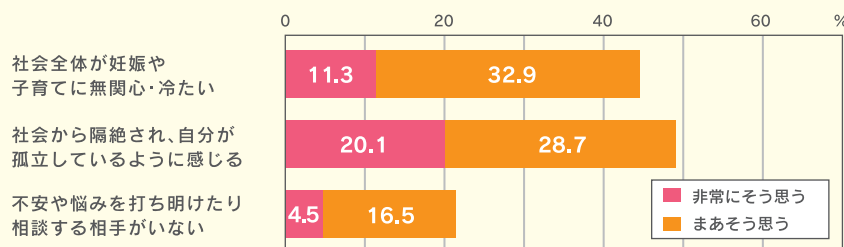
どうしてサポートが必要なの？

〈みんなで応援する子育て〉多くのお母さんたちは、子育て期間中に孤独感や負担感を訴えています。子育てにやさしい社会環境を築くために、皆さん一人ひとりの理解と協力が必要です。

子育て支援と地域の連帯

平成16年の意識調査によると、多くのお母さんは妊娠から子供が3歳になるまでの期間、孤独を感じ子育てを行っています。今後は、気軽に利用できる子育て支援センターなどの整備とともに、周りの人たちがいつでも暖かい手をさしのべる、お母さんと赤ちゃんにやさしい街づくりが求められています。

妊娠中又は3歳未満の子どもの母親の意識(平成16年調査)



多くの母親が孤立感の中で子育てを行っている

資料：(財)子ども未来財団「子育て中の母親の外出時等に関するアンケート調査結果」(回答1069人)

どんなサポートが必要なの？

〈みなさんへのお願い〉妊娠中、特に初期のお母さんは、妊婦であるか判断しにくかったり、「つらい症状」がある場合もあります。あなたの住んでいる街や職場などで、妊産婦さんはもちろん子育て期間中のお母さんを見かけたら、皆さんからの思いやりある気遣いをお願いいたします。

妊娠中又は3歳未満の子どもの母親の意識(平成16年調査)

外出先で困ること、周りの人たちに手助けしてもらいたいこと。



- 1位 階段の上り下り/エレベーターやスロープがない/段差が多い(225人)
- 2位 バスや電車で席を譲ってもらえない(93人)
- 3位 歩きタバコ/タバコの煙/禁煙対策が遅れている(66人)

外出先で手助けされたり、勇気付けられたりして嬉しかったこと。



- 1位 バスや電車で席を譲ってくれた(205人)
- 2位 ベビーカーを運んでくれた/たたんでくれた(183人)
- 3位 子供をあやしてくれた/話かけてくれた/見守ってくれた(121人)

資料：(財)子ども未来財団「子育て中の母親の外出時等に関するアンケート調査結果」(回答1069人)

未来のお母さんと赤ちゃんをみんなのやさしさをサポートしましょう!



担当：厚生労働省 雇用均等・児童家庭局母子保健課